

製品名: CRF-R1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09391**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	50kDa

抗原情報

遺伝子名	CRHR1
別名	CRHR1; CRFR; CRFR1; CRHR; Corticotropin-releasing factor receptor 1; CRF-R-1; CRF-R1; CRFR-1; Corticotropin-releasing hormone receptor 1; CRH-R-1; CRH-R1
遺伝子 ID	1394.0
SwissProt ID	P34998
免疫原	抗血清はヒト CRHR1 の内部領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 71-120

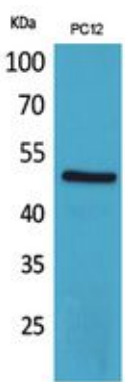
背景

この遺伝子は、視床下部-下垂体-副腎経路の主要な調節因子である副腎皮質刺激ホルモン放出ホルモンファミリーの神経ペプチドに結合する G タンパク質共役受容体をコードします。コードされているタンパク質は、ストレス、生殖、免疫応答、肥満など、多様な生理学的プロセスを制御するシグナル伝達経路の活性化に不可欠です。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じます。この遺伝子と上流の遺伝子 ID:147081 との間の自然発生的なリードスルー転写により、この遺伝子の産物と類似性を共有するアイソフォームをコードする転写産物が生成されます。[RefSeq 提供、2016 年 8 月]、機能: これは副腎皮質刺激ホルモン放出因子の受容体です。高親和性の CRF 結合を示します。この受容体の活性は、アデニル酸シクラーゼを活性化する G タンパク質によって媒介されます。PTM:C 末端の Ser または Thr 残基がリン酸化される可能性があります。類似性:G タンパク質共役受容体 2 ファミリーに属します。組織特異性:主に小脳、下垂体、大脳皮質、嗅葉で発現します。、

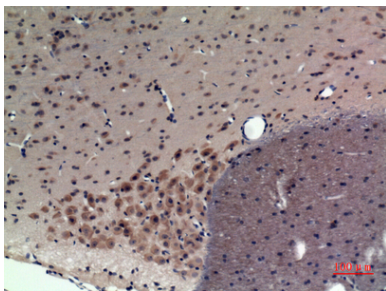
研究分野

神経活性リガンド-受容体相互作用;長期うつ病;

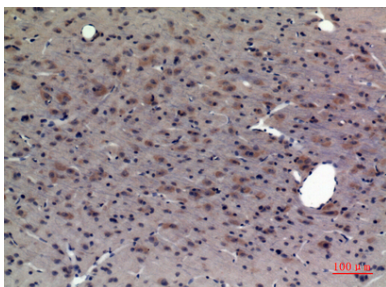
画像データ



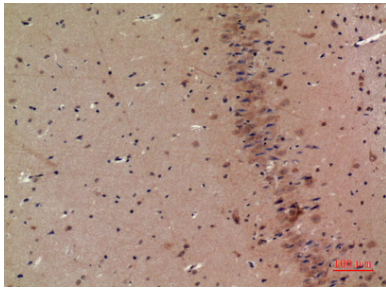
CRF-R1 ポリクローナル抗体を用いた PC12 細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈された。



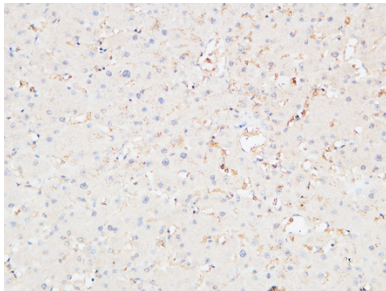
パラフィン包埋ラット脳の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



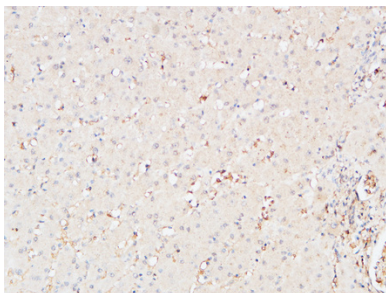
パラフィン包埋ラット脳の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



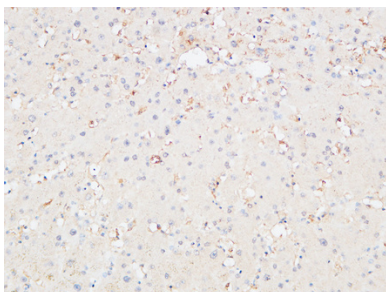
パラフィン包埋マウス脳の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



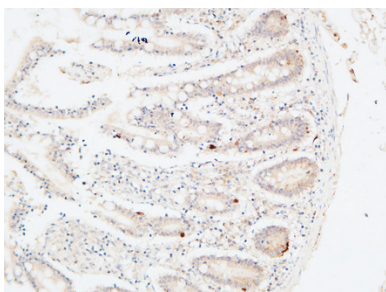
パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



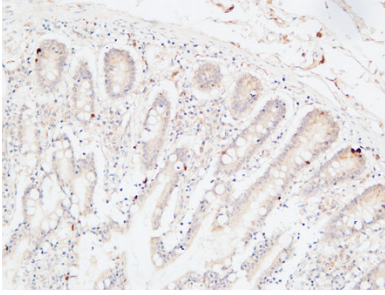
パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト結腸の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト結腸の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。